



近藤氏藏書記

七

近藤氏藏書			
一	四	歴	和
〇	六	史	書
冊	號	函	門
		類	

リ 5
6039
7



リ5
6039
7

大同記卷第十四目錄



藤忠
文庫

昭和十一年
六月三日
小田島吉政
長岡及大野
大野贈

已將軍於名護屋沙城年之事
 道傍高瀬渡止之事
 將軍憐於吏婦之間之事
 乾于可相攻本曾城沙書評後之事
 丹國之城為去之事
 湯能之事
 漢南略之事
 大友以下二三人沙杉櫛之事
 於朝鮮船軍之事

大同記

四

おびて下向せしる。此氣^キ疾^イくして唇^{テシ}下^カらうり
 此能^シと^ス是^レ所^ニを^シつ^クこ^トま^テ。此^レ也^{ナリ}もの^トめ^スを^シ能^ハひ
 又^シ在^リ陣^ニに^シ能^ハく^シも^シ能^ハめん^ト也^{ナリ}。と^シも^シら^シん^トん
 る^ク云^フら^シら^シは^ハ。此^レ年^トも^シ漸^ニ再^ニ順^ニら^シら^シら^シ
 む。移^リら^シる^レ止^メ給^ヒる^レ目^ト制^スに^シら^シん^トん^ト云^フ
 も^シ又^シ笑^ムと^シつ^クこ^トま^テ。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。初^メ
 移^リ山^ノ里^ノに^シ。此^レ物^トを^シ連^レけ^テこ^トま^テ
 此^レ仕^レ業^トは^ハ。わ^シは^ハつ^クも^シは^ハつ^クや^ウに^シせ^ト也^{ナリ}
 後^也。新^レ九^ノ部^トと^シ。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 一^方も^シや^シも^シ向^キあ^テ抽^ク。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。

ま^シ此^レ由^ニ書^キ松^ノり^上。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 と^シ強^クて^シら^シけ^テい^ハも^シと^シ宣^ヒつ^ク。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 と^シた^シめ^テ民^トと^シあ^リん^ト。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 車^ノ外^ニ寫^シく^レ作^ル中^ノを^シめ^テも^シ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 内^ニよ^シす^レあ^リん^ト也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 有^リける^レも^シと^シて^シん^ト。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。
 と^シお^ヒて^シく^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。此^レ也^{ナリ}。

十一
やうめん
及られん

十二
めんと

木がしりし

しるる

られん

ふんわ

おもしろい

あれ
二月十日
大岡より

勅書と將軍頂戴之事。冥加にむなり。宸襟

と安んじしに。松がされぬやうに。を清く。と。い。め
まの。後。を。廉。渡。海。を。美。女。と。い。ふ。は。い。い。し。
ゆ。く。く。の。自。物。答。あ。り。き。り。

秀吉の憐於夫婦之間事

薩州の津内。小野。橋。津。也。ゆ。う。に。を。さ。う。し。り
息女と持ゆり。肥前龍造ちう長。津川。采。女
正。の。嫁。と。采。女。正。を。廉。在。陣。に。お。し。り。後。妻。あ。わ。い
し。と。い。ひ。乃。は。い。は。い。強。お。よ。ま。い。し。付。ゆ。り
と。使。り。船。よ。し。と。い。ひ。と。り。り。り。り。折。り。難。風。に

ひ。あ。い。し。吹。来。て。船。を。そ。ん。一。為。也。博。多。の。浦
一。号。有。る。と。漢。文。拾。い。上。ゆ。り。し。り。中。は。流。を。ぬ
わ。れ。後。を。能。つ。み。う。る。お。わ。り。び。う。そ。ん。事。は。文
箱。と。お。ゆ。き。お。ゆ。り。し。り。お。わ。り。し。り。此。は。忍
者。と。も。き。こ。く。よ。し。う。ぬ。あ。る。ぬ。文。通。り。り。い。や。し。き
志。が。と。れ。波。披。お。お。わ。り。し。り。お。わ。り。し。り。取。り。吏
務。へ。し。り。あ。け。ぬ。吏。務。信。を。つ。り。軍。之。出。前。品。一
く。と。り。と。ゆ。り。し。り。則。秀。吉。の。云。一。吏。箱。乃。符
と。も。切。と。し。り。右。第。一。の。ゆ。り。山。中。山。城。也
を。し。り。流。一。ら。ん。ま。に。女。れ。又。一。の。第。一。の。ゆ。り

一々書法にけり。

 有りては毎にわたりしをわたりてむくひに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

 申すまゝに申すまゝに申すまゝに申すまゝに

まゝ

なるなりと。

 と。

 す。

 ぬ。

 け。

 ね。

 と。

 是。

 こ。

 お。

大正新刊

うりけり我をまよふにけりしよもねまのあはれなる
 うらせとて又さしけりしよもねまのあはれなる
 まさうにんもひさし我も又らるるやうにさぬ
 事と志まじり押心（心）に身をまよわされのあはれなる
 さまあはらうりあまの心まじりあはれなる
 みしあはれまじりあはれなるなりとあはれなる
 多くさしけりあはれなるもさしけりあはれなる
 せしあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる
 あらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 進んたるに事にしてけりけりけりけりけりけりけり

きよ人と凍つるも有るけりけりけりけりけりけり
 わさしそりきれりけりけりけりけりけりけりけり
 思ひけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 めあひけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 せおほくゆりぬたも神の心（心）よの毒あはれなる
 てゆれとてなまけりけりけりけりけりけりけりけり
 尸（し）たれいけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 まりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 山を満て（名）あまの風あはれなるあはれなるあはれなる
 うさしけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

萬人の心一ひを物んてあまふより天下の君
 を立民の父母とす一ひあふあふのあまふの
 てゆへに五こも赤心ひまらひせらるる。日ひら
 うおまらひせらるる。けあがしはるる。あま
 よあまはれし。あまはれし。あまはれし。あま
 川とあまはれし。あまはれし。あまはれし。あま
 浮白はあまはれし。あまはれし。あまはれし。あま
 よあまはれし。あまはれし。あまはれし。あま
 に因てはまふあまはれし。あまはれし。あまはれし。あま
 はんて。あまはれし。あまはれし。あまはれし。あま

奉来奉

一赤國本曾判古率松万誘海くあまおお坊部表
 在陣之勢与釜山浦之通路之由付也。長是政中七
 本村常陸也。右右川あまはれし。あまはれし。あまはれし。あま

熊中をら

一赤國本曾判古率松万誘海くあまおお坊部表
 在陣之勢与釜山浦之通路之由付也。長是政中七
 本村常陸也。右右川あまはれし。あまはれし。あまはれし。あま

合其勢三方皆弱。則赤國可攻。而方寸付之。所令者。向難取。因故。博本。曾。勢。三。倍。也。一。う。も。通。む。さ。つ。近。敵。之。義。も。有。る。也。此。地。た。も。有。へ。る。う。も。一。重。く。難。向。と。し。て。一。う。も。う。り。く。と。淺。慮。之。者。不。お。初。之。歟。不。交。於。勝。敗。此。良。將。之。古。人。之。所。云。ま。れ。い。と。教。受。い。く。う。一。と。亦。一。部。表。在。何。之。勢。不。能。引。拂。し。ま。結。固。之。を。表。赤。國。と。以。ま。げ。本。多。う。首。と。入。せ。あ。ら。う。之。う。一。部。表。引。拂。う。并。赤。國。攻。平。く。い。さ。う。何。七。里。而。如。水。好。淺。理。深。而。水。深。い。身。を。通。う。の。う。い。ら。る。を。事。人。

美多

右集々 におろ 妙方 一葉 一 夏 秋 になら ば 是 也

決 事 本

朝鮮國名を傳之衆中

子而後中内事平と云ふ 秋人 冬 何 には 赴く 秋 秋 子 在 之 備 亦 宰 にお 友 三 年 切 而 亦 人 心 去 此 云

魁 龍 龍 擡 伸 △ 上 意 了 云

抑 某 人 集 傳 之 事 其 表 亦 傳 之 意 也

... 盤上と遊連文おもハ推乃...
... 見与人基
... 入かん... の中用...
... あり。

或曰。三... 浅...
... 上圍棋...
... 息淺...
... 根多...
... 後ハ...
... 圍棋...

... 日本之乱...
... 田之内...
... 十案...
... 連状...
... 懐...
... 思...
... 職...

しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量

○本員判官城表之事

奉山浦しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
判官しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
本員判官城表之事
奉山浦しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
判官しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量

紅

夫の太物。糖屋内膳正。太田花彈子。奉山修治亮。忌部
下野守。其合組五牛。其合其勢一萬三千余。本員判
官しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
本員判官城表之事
奉山浦しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
判官しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量
しつとけし。其味のしつとけし。斗量と量

大岡色

船より八日ひちようぬきりに。英國人といふは先
 角の舟はよとみんと申され。各らず船をよま
 死受し侍らぬ。翌日と先事ハ事合組にけり。け
 子らん志名の故より十町けり。當て一軒あり。敵
 三千斗あり。鉄炮と申。船はけり。けり。けり
 ありと申押之と下知。くれハ。村より女性海田傍
 三石 後号は向 けか面とや。と村の中へ真先に出入
 ちうん。海田村よりとて。大津玄着元。五斗あり。先
 兵束耐。過久次。下。村より。志耐。同。申。出。耐。と。つ
 二。て。池。入。ぬ。あ。く。申。と。る。る。あ。く。は。一。番。首。と。捕

て。し。上。より。船。係。人。と。城。と。心。け。返。り。ん。と。立
 出。る。衆。一。掛。分。し。よ。身。首。搦。て。け。り。そ。か。起。射。し。首
 百斗討捕。凱歌を唱ふ。か。ま。り。と。定。し。と。く。竹。た
 ら。と。付。西。播。と。堀。際。に。上。陣。申。と。下。し。鉄。炮。に
 下。射。し。め。六月。十。日。子。れ。子。結。核。と。ひ。と。く
 と。場。へ。投。入。く。時。の。射。を。軒。傳。へ。飛。入。く。結。核
 と。打。お。け。殺。す。と。く。と。合。上。り。と。ん。に。結。核。多
 く。い。り。て。あ。ま。り。に。落。し。切。り。と。く。女。長。島
 波。中。守。今。才。主。着。元。只。一。人。結。核。の。り。も。た。ま。く。あ
 の。志。と。付。金。を。味。中。に。入。り。ま。り。一。人。と。結。核。り

一、^後下^身以^先陣^子を^極り^を信^者也^見
 一、能^兵者^多く^引き^切り^を我^りに^しる^也
 一、と^入り^くは^り一^六路^を我^るに^しる^也
 一、^長む^む指^をに^付れ^ぬぞ^か小^の勢^力古^きに^しる^也
 一、^我る^に一^六路^を我^るに^しる^也
 一、^思ひ^まく^付き^しる^也
 一、^百或^者の^上より^後て^死す^一或^者大^河より^て關^を死^す
 一、^却合^二勢^を子^を果^人と^しる^一

一、^二年^の月^の日^のに^於て^後に^在り^て能^くし^る也^一

一、^六路

一、^思ひ^まく

一、^長む^む

一、^我る^に

一、^と入^りく

一、^能兵^者

一、^思ひ^まく

一、^長む^む

一、^二年^の月^の日^のに^於て^後に^在り^て能^くし^る也^一

一、^六路

一、^思ひ^まく

一、^長む^む

一、^我る^に

一、^と入^りく

一、^能兵^者

付通

大鼓

小鼓

笛

大鼓

あひ

狂言

二番 田村

大鼓

七命甚以中

大鼓 亦系

孝の言以中

七命 吉之屋門尉

七命 小次郎

大鼓 海右兵衛尉

七命 甚六

大鼓 忠務

りき

大了

小鼓

笛

あひ

狂言くぬり大鼓

お撲と集り

三番 春風

大鼓

りき

七命 源右兵衛尉

梅口 石人守

親世 小次郎

七命 新大鼓

大鼓 忠務

傳大鼓

甚六

七命 八郎

七命 源右兵衛尉

片礼

竹後和泉

大鼓

樋口石久

小鼓

幸内吉次郎

笛

八幡和泉

西山

長命甚六

狂言釣三下

祝海三郎

あし

甚六

四番 那那

大史

常松新九郎

大片

喜高と大史

大鼓

かすや甚六和泉

小片

山崎三郎

笛

長命吉次郎

狂言常備

大鼓海三郎

五番 道成寺

大史

と甚八郎

小片

武後和泉

大鼓

大鼓吉次郎

小鼓

幸内吉次郎

笛

長命吉次郎

狂言

海老巻

見物の法儀大まか人折なり。下。法衣
めらりりふ。大まか座乃志大法服。下。半
八節に八巻。織菊の法儀付。法衣小袖二
巻なり。

六巻 う八巻

大まかおび。之の袖と。是の法衣。法衣を
仕り也。

七巻 三巻

大まか

七巻 八節

りき

喜巻と大まか

大まか

大巻 大巻

小つと

大巻 又巻

笛

右命 新大巻

冬巻

七巻 又二巻

八巻 金札

大まか

七巻 八節

りき

七巻 法衣 大巻

大まか

大巻 大巻

小つと

大巻 大巻

節

七年吉大吏

大報

徐石全花

漢南勢為救朝鮮急難兼陣

癸巳二月十日漢南之勢五十萬騎兼陣

於西大河之使一安宮之據合衆の中

子陣の多と合さるり多勢に七驕を却る

てそ入しよ係純固めなハ手万七の之之兼

と一も也打破ら画一ととお後一同十

漢

二日拂曉に四方より押つあ二之九中一ハハ右を

前にお我推つおされつ家より一組打つ

て一追詰首を取つ河を拂つともあり多勢に心

をさ致し一防を破り一を落去る危しなり

西山にわつあさ一ハ先虎口と申せん

と却る是子陣を固めたり然るお進ハ

紫山をさ一里より軍を固め塞その陣の満ハ

さ一合し一と大明勢者ハ一ハ小勢なり

軍之代程よりわさ一ハ始終難拘や一十三日

のさ一ハ軍より五十万騎の勢と

とて今身なれいづく候もけしき原にせむ。

○豊後守護大友法持（法持）之う

受。侍候志福原在る御態吾内花元

一先子之城ににまつく者及誰儀之折節おれ懸
めつあきの城を指至人敷と入る事。手原何と
存知之共也然うと少あう志難而死一生なりと
云々。不存脚成（足立）割平隴之松子をも不け合途（平隴）
所莫亦代末中（代末）之仕立不存是也此いふ。

未開

一秀者あまの昔より地邊に携（カサネ）と云々。統（トウ）る者務
越後を記するあり。是ハ殊に大明（トウ）勢との合
戦なれり。中（ナカ）のあめりく。一（ヒト）さハあ（ア）の（オ）勢（セ）務（ム）
之。ま。武者にも不能。志義之心を有る。一（ヒト）さ（サ）武士
た。上。絶言。諸。事。也。向。後。の。一。め。一。事。と。も。一。め。果
う。後。だ。り。と。と。云。々。新。勢。の。り。久。く。一。つ。り。し。
あ。と。の。な。新。勢。と。柳。道。の。邊。ふ。や。う。中。七。貴。し
候。ま。固。て。死。能。と。宥。め。平。能。武。士。と。上。と。を。以
味。一。悔。あ。此。可。申。す。

一。天。正。中。う。け。り。と。い。ふ。語。津。と。批。合。戦。務。原。區。こ。に。付。る。

正

對某德加勢^ニ又^ニに^ニお^ニ取^ニ之^ニ國^ニと^ニあ^ニる^ニ。其^ニま^ニあ^ニる^ニ
 七^ニ無^ニと^ニ云^ニた^ニ。う^ニ家^ニの^ニ習^ニい^ニち^ニん^ニ七^ニ古^ニを^ニ格^ニ
 為^ニな^ニれ^ニ。字^ニの^ニ建^ニつ^ニか^ニ勢^ニは^ニ画^ニ後^ニ未^ニ可^ニ追^ニ及^ニと^ニ為^ニ
 ち^ニら^ニか^ニ船^ニ之^ニを^ニ。此^ニ方^ニ一^ニれ^ニた^ニを^ニ七^ニ不^ニお^ニ行^ニな^ニ合^ニ我^ニ
 刻^ニれ^ニ越^ニ後^ニ之^ニ仕^ニ合^ニ且^ニ淺^ニ智^ニの^ニ治^ニ津^ニの^ニ謀^ニ斗^ニの^ニ所^ニと^ニ
 一^ニへ^ニれ^ニ及^ニ。敗^ニ小^ニ且^ニ怯^ニ兵^ニの^ニ敗^ニ小^ニ備^ニ一^ニを^ニ覺^ニ
 好^ニし^ニて^ニ乃^ニ一^ニ戰^ニ。大^ニ友^ニ先^ニ祖^ニ之^ニ耻^ニを^ニ後^ニ代^ニに^ニ残^ニせ^ニる^ニ
 其^ニ恥^ニを^ニあ^ニ揚^ニす^ニ。故^ニに^ニ敗^ニ辱^ニを^ニ置^ニけ^ニれ^ニ。故^ニに^ニ一^ニ
 七^ニあ^ニれ^ニ。入^ニ。國^ニの^ニ見^ニ。恥^ニを^ニ入^ニ。古^ニと^ニ掃^ニる^ニ
 臨^ニ病^ニ家^ニ之^ニ瓊^ニ瑾^ニ世^ニと^ニあ^ニま^ニり^ニ。一^ニを^ニ。

一^ニ連^ニ之^ニ城^ニを^ニ掩^ニへ^ニ。穿^ニて^ニ。う^ニ。大^ニ敵^ニを^ニ来^ニ。其^ニ當^ニ座^ニ之^ニ意^ニ
 難^ニと^ニ通^ニす^ニ。う^ニ。め^ニ。大^ニ片^ニ四^ニ片^ニ未^ニ謀^ニ及^ニ何^ニ。人^ニ時^ニ
 遊^ニ。擲^ニ。鏡^ニ。其^ニ志^ニ難^ニと^ニの^ニえ^ニ。ん^ニ。う^ニ。め^ニ。何^ニ。り^ニ。如^ニや^ニ
 の^ニ。う^ニ。と^ニ。と^ニ。か^ニ。う^ニ。り^ニ。と^ニ。以^ニ。右^ニ。城^ニ。之^ニ。切^ニ。と^ニ。布^ニ。也^ニ
 う^ニ。尤^ニ。耻^ニ。け^ニ。容^ニ。す^ニ。う^ニ。口^ニ。難^ニ。於^ニ。國^ニ。之^ニ。美^ニ。業^ニ。を^ニ。遠^ニ。三^ニ。一^ニ。系^ニ。其^ニ
 實^ニ。結^ニ。に^ニ。七^ニ。耻^ニ。先^ニ。祖^ニ。之^ニ。家^ニ。業^ニ。を^ニ。顧^ニ。三^ニ。一^ニ。廉^ニ。之^ニ。備^ニ。と^ニ。い^ニ。之^ニ
 一^ニ。法^ニ。後^ニ。大^ニ。夫^ニ。外^ニ。也^ニ。う^ニ。う^ニ。別^ニ。大^ニ。友^ニ。家^ニ。の^ニ。古^ニ。之^ニ。所^ニ。説^ニ。と^ニ。有^ニ。之^ニ
 由^ニ。之^ニ。れ^ニ。た^ニ。其^ニ。名^ニ。字^ニ。を^ニ。何^ニ。る^ニ。と^ニ。う^ニ。言^ニ。ふ^ニ。其^ニ。意^ニ。を^ニ。以^ニ。て^ニ。平^ニ。句^ニ
 論^ニ。加^ニ。踏^ニ。之^ニ。果^ニ。の^ニ。三^ニ。人^ニ。を^ニ。除^ニ。い^ニ。て^ニ。い^ニ。う^ニ。く^ニ。傳^ニ。ふ^ニ。と^ニ。う^ニ。

弓

考多れ。討破に思ひ。方々ヨリヨリと。別軍之先鋒と
進マシま。よ。老。道。なる。人。さ。め。り。

一船。恙。を。好。之。中。在。得。之。由。是。ハ。解。表。未。方。夫。利

る。め。り。ハ。先。近。ぬ。一。己。之。身。敵。を。自。申。せ。ん。の。心。な

れ。何。者。勇。志。之。難。小。し。も。て。信。病。志。之。所。好

併。り。

一先。年。九。列。と。お。る。之。別。何。之。志。考。七。無。さ。と。云。先。兵

度。以。進。て。歎。き。尸。に。付。る。お。か。ふ。と。海。堵。平。子。上

上。方。善。法。ホ。再。開。東。陣。ハ。来。以。免。い。之。也。ハ。後。之

之。恩。と。と。志。却。刺。勝。必。と。お。合。之。仕。立。之。心。な。り

此。之。心

一其。身。之。美。ハ。十。人。身。之。強。に。て。小。而。振。舞。も。亦。に。是

之。以。堪。忍。之。美。上。之。心。作。付。さ。り

一波。又。三。河。也。う。鍋。終。加。賀。也。多。力。被。派。付。上。ハ。同。心

一の。心。ハ。勢。之。也。梅。臆。病。二。七。ク。ハ。口。口。母。鬼。に。隠。居

す。怯。志。と。云。ず。ハ。亦。と。云。旁。以。テ。死。甚。深。い。り。

一各。獲。屋。ハ。波。多。郎。知。之。也。と。梅。振。敏。に。引。立。上

居。味。ハ。名。ハ。あ。ら。は。振。之。氣。色。と。七。仕。先。多。人。の。心。也。越

之。也。志。之。船。恙。と。信。之。也。や。の。時。考。を。お。付。し。由

事。ゆ。り。無。恐。さ。り。

一此は都に在る法勢川の砌中途一舟が補其
 舟を牽に引んと欲するに舟は狂忽とて徳人
 の見こゝろに七掛をせしむらん其れを
 死罪とハハと死許は句後をりて言上。家持余
 いら下置下り。

一先年九列と書く事刻。波多よりある海島を要
 する事下下籍にと錫封。東に柔而僥云下下
 本と云と安徳平。其上を國之義を厚し思召
 京都之善法を聞東河を七と求法。其の平は
 ともともふはかゝる義。傷ある人。其れを

一此は甲斐の所。頼軍と云ふ事。其の地。堪忍の
 義。此の所。出づる。右五人。其の事。あつて。や

文禄三年五月三日

頼朝を伴ふ

源白。右友侍。是系統。法律。み。若。波多。三。は。ち。り。
 理系に。遣ひ。人。其。り。明。己。其。り。利。せん。り。
 を。其。徴。の内。よ。り。あ。り。思。ひ。こ。め。か。は。士。
 の。格。を。御。と。云。九。己。命。其。れ。に。因。て。り。秀。

進こ不及^{イサケ}り。あか^カく^カ。此^{ウカ}事^カ。船^カと浮^カ港^カ。一
 親^カさう^カ心^カ外^カなり。あま^カに浮^カて敵^カあひ^カ進^カう^カん^カゆ^カ
 い。心^カく^カた^カ馬^カ助^カう^カむ^カ姓^カた^カと^カあ^カ六^カ碁^カ目^カの^カさ^カ代^カあ^カ
 へつ^カま^カて^カ戻^カへ^カし^カと^カ各^カを^カり^カつ^カ理^カり^カつ^カ。類^カ船^カと
 と^カ船^カ進^カお^カり^カり。賢^カ友^カあ^カら^カあ^カら^カう^カ目^カ出^カる^カも^カ方^カ便^カ
 類^カ船^カは^カと^カ進^カし^カる^カも^カと^カ扱^カあ^カり^カつ^カ。櫓^カと^カも^カあ^カめ
 一^カは^カ潮^カと^カ國^カを^カ渡^カつ^カま^カ川^カの^カ案^カと^カゆ^カ二^カ艘^カの^カ舟^カ三^カ
 町^カも^カま^カん^カと^カ思^カし^カき^カ時^カ舟^カら^カり^カに^カ津^カの^カま^カより
 る^カ志^カる^カし^カと^カい^カひ^カと^カ振^カり^カ振^カゆ^カら^カは^カ二^カ艘^カと^カ船^カ之^カ志^カ
 大^カん^カて^カ二^カ艘^カも^カと^カり^カゆ^カの^カ事^カう^カ。又^カゆ^カり^カ作^カ入^カと

のま^カう^カと^カ送^カら^カる^カし^カ。や^カま^カ。判^カ向^カた^カ舟^カの^カら^カや^カう^カも
 どれ^カと^カ船^カの^カ五^カ艘^カを^カ扱^カく^カも^カう^カに^カ振^カり^カ之^カ一^カ艘^カの
 方^カへ^カ扱^カあ^カら^カれ^カと^カま^カて^カし^カを^カゆ^カら^カめ^カ。先^カ櫓^カと^カ位
 直^カせ^カと^カい^カて^カう^カり^カは^カも^カ船^カ孫^カを^カう^カ成^カに^カ浮^カて^カ。大^カ意^カを
 と^カ上^カふ^カし^カり^カ三^カ番^カ目^カの^カ船^カと^カあ^カ案^カ扱^カえ^カ。そ^カら^カさ^カは
 大^カや^カて^カ方^カを^カ扱^カて^カ急^カを^カ舟^カ孫^カす^カさ^カの^カ一^カき^カみ^カと^カさ
 ま^カり^カ。敵^カ船^カを^カう^カら^カる^カも^カな^カら^カお^カら^カり^カ三^カ番^カ目^カの^カ船
 船^カ三^カ百^カ艘^カの^カ中^カよ^カり^カ只^カ一^カ艘^カら^カも^カ船^カ子^カ漕^カ向^カふ^カ。か^カと
 扱^カと^カい^カし^カ。海^カ山^カよ^カ深^カ居^カら^カれ^カ着^カ船^カた^カと^カ林^カ孫^カの
 岸^カを^カ傳^カひ^カに^カ並^カ居^カら^カれ^カ船^カ先^カ。其^カ乃^カ子^カな^カら^カに^カ賢^カ友

の舟三艘を叩いて。さんで。ゆりけ。め川流射る。
車軸と流を。向の。や。一艘の番船力を。ね。二艘を
射る。さ。甚い。影。だ。幼。敵。紅。よ。の。万。五。万。六。百。に
い。さ。さ。が。鉄。炮。を。撃。ち。あ。つ。失。け。な。ま。や。う。お。心。を。志
つ。め。て。さ。て。よ。と。下。知。り。た。れ。お。し。ま。ひ。め。鉄。炮。を
け。ろ。く。立。射。と。噴。と。撃。ち。ち。り。ち。り。か。ろ。う。内。子。番。船
乃。水。子。せ。う。の。志。を。將。基。と。し。と。ま。ろ。う。や。く。せ。ん
汁。と。し。く。と。射。と。ま。れ。そ。し。碎。骨。一。擗。を。り
さ。う。と。も。ひ。ら。ん。ん。見。し。射。ち。る。如。大。の。眼。を。い
ら。し。や。迷。恥。を。羞。よ。く。と。際。を。さ。よ。も。あ。く。下

舟

船より。り。り。れ。あ。子。せ。一。ま。に。精。を。出。し。船。を。あ
船。子。押。し。ち。り。つ。り。ち。り。後。地。太。志。の。射。打。か。を。と。う。け
る。し。く。の。敵。切。拂。ひ。く。二。三。度。志。さ。る。と。し。と。だ。さ
脚。も。け。て。案。入。ん。と。心。い。お。う。し。名。め。め。先。二。つ。三。川
あ。ら。つ。て。そ。か。も。合。約。せ。と。海。中。一。お。ち。い。と。ん。と
志。さ。り。し。と。水。子。中。子。は。け。ん。し。り。と。さ。り。他
ら。志。の。射。一。番。の。名。い。ま。な。り。と。さ。つ。案。入。ら。る。船。を。起
上。り。し。け。り。し。て。案。入。ら。り。支。川。三。言。れ。志。の。射。打。田。三。言
何。射。も。二。八。口。押。し。と。し。三。番。に。案。入。ら。り。痛。り。や。如
故。志。次。郎。と。さ。り。志。六。り。手。十。六。歳。を。心。ゆ。り。に

やさうらりなれはなる船よりううゝ寤あしやうら。
 他も出つに河一ついでて来入んとさう一乗り。射落
 され海中にそりハ沈むとちた。名ハ河上江流
 河村持七云。お方長共米射押一ついでて来指け
 利。佃以兵米射。敵ら兵出射。東助大出射中。破
 後大出。そ外おまの兵十方六人と一。三艘乗
 捕ぬ。ちる船乗入一船。敵一人もた。何言へた
 何やんと息もあや。せも板を上みれ。船底も打
 入てうをうふくと川をり行けり。何れも人
 らやうもあ。たあしを向ふもなる物何とを

されうらや。近戦入んと思。うら。お方面もや。は
 大力とねさつ。撞入し。おく。まをも射。
 ぼも。あ。合せおま。ゆる。接切。代。首。指に
 ちり。或肘を打。海へ飛入もあり。さうては
 つも。不。便。は。ら。と思ふ。船。て。操。を。お。さ。う。も。あ。
 或水もほく。も。う。も。さ。う。十。方。一。船。も。は。な。り。
 船。後。母。衣。の。走。七。艘。乗。指。ぬ。お。方。乗。一。船。も。二。年
 一人有。う。か。え。も。と。原。一人。射。死。して。う。り。や。う
 子。徒。人。を。用。子。ま。う。七。稀。な。り。

活向日城之剛共。窮鬼なて。噬猫之物也。

其方夏天正十一年夏於江中擊田合戰之割突一
 番艦を揚揚馬為活慶第一番と加増年
 今般亦於新解危時番艦數百艘之中餘味
 寸郵船乘入乘捕敵船多あり子物そ當切
 誰立之于上手孰比之于下手殊と無於此天
 對山と海の川入之方各艦は連判就難
 棄於喧嘩之主計以乘不為加おる方神妙之
 至感威不神也依茲手前代安に有以牙
 三萬七ふ石と加増年本知合十萬石の内
 去可石志のあり無後法候之内控病志ある

久保三季

九月日

秀吉酒來下

買取たる物との

之志被清親示以可被加國也之系在
 家之抽其忠之状也件

浮白たる船番船三方余艘之中一船一艘
 とそ是志に郵船とそ多れり心の剛能
 手方に代て或しちへ一船年成状とそハ
 五餘一が増取之地不足とれり信也云云

大原大吏自身鎧を合せ。突し。一。つ。鐘。新。子
 を入。く。攻。込。く。も。も。向。と。あ。せ。さ。る。も。謀
 伝。云。の。所。り。ま。お。い。り。三。九。と。ち。り。毛
 利。右。三。郎。長。次。泉。氏。部。大。吏。元。光。ハ。抗。之。利。家。吏
 の。急。なる。所。に。必。魁。勇。之。後。り。と。無。七。亦。普。徳。ホ
 未。定。り。れ。外。持。と。の。ち。方。小。子。河。路。方。中。隆。景。と
 正。觸。ま。り。ぬ。氏。部。大。物。固。く。の。ち。と。衆。被。安。心。統
 帥。と。互。普。也。り。か。く。云。七。果。ぬ。に。漢。亦。勢。も。と。分。
 神。衣。ま。る。ぬ。次。泉。氏。と。走。竹。た。ち。に。呼。喚。し
 火。也。と。ら。し。お。戦。小。子。毎。別。に。な。つ。る。と。鐘。我。或

廣南

戦。ひ。つ。つ。多。或。討。死。し。抄。す。く。な。に。み。し。一。も。よ。お
 敵。の。あ。く。ら。い。の。ち。の。せ。め。一。の。氏。部。大。捕。手
 も。と。に。す。む。老。光。十。又。六。人。も。り。と。水。車。も。一
 ち。死。せ。り。河。曾。派。也。あ。ち。と。一。所。よ。討。死。と。と。た。た
 了。り。り。た。も。書。あ。り。み。し。サ。余。人。松。と。並。討。死。ぬ。白。松
 若。大。湯。門。尉。伴。重。清。又。若。湯。尉。右。安。太。即。ち。果。は。り。お
 敵。在。他。所。討。死。せ。り。一。事。と。か。つ。あ。く。と。い。ひ。次。元
 光。と。死。に。さ。ぬ。と。時。り。て。腹。十。五。子。も。あ。き。切。り。失。ふ
 たり。士。の。者。り。や。う。に。あ。き。と。ち。り。し。ハ。大。切。に。り。る
 たり。討。死。せ。り。士。サ。余。人。追。腹。せ。り。士。三。人。姓。名

大原三十四

四十六

本草考

と記し付冷泉城の雲州名の清龍寺
附し其も身并長九尺後牌と云々なり。其後
塔瓦帝刀之生者晴後家康公も雲國也賜
之入郡人。此中亦も文武之通海に感。
至るべくも之規のごとく河法せしきぬいし
し一其雲ふも毛判後為る國許なり。さき
淺野の系大吏ら銃砲と多く上銃火記と
ちり戦し成り成るを海軍と云げらる浅野は
水軍也と云々中も急ぎ申九八入船ひも船
んといさめけ置た他ゆづり二も丸おさて

本草考

お働さ下知たども。おあしりふたもつ一うんて
沖妙なり。其汁取しついとちあやましうの
海摺るに付く好ものなり又善清末吏に
るやいよつういしそよやそし聖教法共未射
とつうり一置し一しそそ難業に及ぶん是
も我のあなり。其上塔城落去せ。日本の
そあま遊中運うしそとあり成ねた。いと
んそし。此船を用せよと。船中行権原
子甲付一うぶ歌てせんそそと道せめく
もこれと思ひ付きたるやうくは。後すそ

くと申さうに家かゝるく一人を撰^撰みのせくとさう
 に。尾林隼人^保まほはよるて。子家^{子家}人撰^撰も出
 行よお沖とをらん。番船^{番船}百艘^{百艘}蝶乃子^{蝶乃子}とむし
 たるおくならん。お手挽取^{お手挽取}足おらんて。震^震ひける
 まさつて。何んて何の中とんとととあゝんや
 及びさあさうさ人めり。命あまの人かとつてや
 おてつて。浮やらぬ水^水子^子さきうりわつれを
 汁^汁に中^中よしとま葉^葉何ん^{何ん}に。あま^{あま}かなるを
 小^小せよして何ん^{何ん}。飯田^{飯田}南^南出^出米^米よ向て。あ乃^{あ乃}大^大やらの大
 男をこしへ具^具して^具と云^{と云}。おん^{おん}あまの^{あまの}子^子を

川^川治^治主^主計^計取^取あよ川^川取^取らだとの色^色も時^時も時^時に
 一^一し^しおん。お^おと^と初^初め^め命^命さる^るさ^さア^ア子^子思^思也^也。余^余一^一人^人の^のあ^あま^まか
 先^先の^のあ^あま^まと^とま^まま^まに^にさ^さんと^と云^云わ^わけ^けい^いま^まら^らち^ち汁^汁な^なれ
 刃^刃と^とぬ^ぬいて^てら^らと^と扱^扱え^える^るを^をお^おん^んれ^れい^い彼^彼大^大船^船付^付は^は
 あり^{あり}お^おお^おら^らな^なは^はけ^け。ア^アま^まは^は山^山物^物之^之出^出船^船出^出し
 さ^さいと^とや^やめ^めの^のア^アいと^と俺^俺ー^ーら^らを^をお^おも^もて^てさ^さか^かと^とく
 脚^脚り^りお^おら^らお^お男^男か^か何^何く^くと^と船^船に^に飛^飛入^入と^とさ^さく^くの^のさ
 かせ^{かせ}あ^あと^とい^いて^てー^ーら^らを^をお^おも^もて^て大^大お^おら^らな^なは^はけ^けえ^えら^らぬ
 幼^幼つ^つの^のあ^あま^まは^は是^是と^とい^いて^て我^我も^もく^くと^とあ^あま^まは^は争^争ひ^ひ禁^禁
 否^否と^と急^急ぎ^ぎめ^めー^ーら^らと^と考^考へ^へる^る志^志も^もな^なか^から^らな^なし^し候^候也

門前ハヨシク。急をや志々と大に突ひつゝ。五艘の
船ヲ取寄付のちと牽引し出つ。一里計
も出。一舟に。敵船五百艘。こらせり。つゝ。二相
二と。物あ。に攻。一。ま。と。一。支。字。子。其。中。下。を
二。と。通。つ。割。敵。船。二。艘。系。捕。接。切。は。海。へ。伐。ひ。し
あり。も。し。り。ま。け。け。旗。の。取。と。ま。て。敵。の。船。六。十
と。の。て。通。し。し。難。あ。く。う。山。の。城。の。後。攻。を
遂。に。せ。り。六。七。十。万。騎。之。猛。勢。法。正。の。統。了。し。し。時
は。恐。ま。し。く。や。河。に。正。舟。三。百。の。取。近。ぬ。深。は。大。軍
の。み。な。れ。し。を。鳴。し。あ。ら。う。り。に。く。ま。し。し。が。軍。中

幸
城
録
上
下

小高のれく。道具もどろ丸為し。ら。事。も。な
う。て。乃。き。し。し。を。あ。ら。う。大。圍。れ。軍。法。も。う
と。お。合。ひ。正。舟。の。も。橙。柄。と。し。れ。な。し。よ。河。取。寄
付。し。し。思。を。し。れ。て。上。校。兼。行。る。の。お。い。ひ。も
ら。進。み。たり
将曰。怒。る。者。を。身。以。勇。道。と。玉。剛。流。く。ま。ひ
へ。て。案。察。給。ふ。べ。し。六。七。十。万。人。を。猛。勢。法。正
一人。の。勇。味。よ。固。く。退。し。事。吃。或。曰。今
玉。剛。よ。取。士。到。り。進。て。以。大。利。し。事。有。と
云。小。又。通。じ

大
利
上
下

五
十

置

以時對山之。後卷八毛利也。其輝元也。子右系
 大吏秀元。後攻之。大將軍也。輝元。長元。戸坂
 前也。漢口。表。左。右。對。以。西。与。以。其。三。川。屋。江
 兵。清。治。泉。民。被。大。捕。阿。曾。派。其。其。亦。軍。兵
 被。合。二。万。余。騎。之。河。之。人。之。亦。原。より。こ。め。其
 也。と。度。之。毛利。之。場。より。小。早。川。筑。お。き。其
 系。右。川。飛。人。依。立。花。左。近。於。監。久。為。米。信。長。未
 之。勢。也。万。余。騎。也。其。系。大。吏。旗。之。二。万。余。騎。部
 合。六。万。余。騎。之。軍。場。より。之。文。禄。四。年。二。月。元。日
 漢。南。勝。之。對。陣。せ。り。翌。日。二。日。あ。り。先。之。桃。合。戦。小

子川右川立花先登とありていお戦首板下
 討捕ぬゆもよ漢南勝難に勝利や思ひらん
 同三月に和石抄敗水と。以。統。之。下。右。護。屋。江。を
 有。一。ふ。秀。吉。公。討。外。内。機。機。宜。く。先。之。也。
 少。感。之。二。月。下。旬。右。系。大。吏。亦。人。以。感。其。也。

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

大周紀十五

契菴至計以於赫表入勢事
 小西於平安邑振德武事
 三有以衣法勢之引連了於打入
 長谷川若五節自云之事
 大明御返勞之事
 秀吉之御船格之事
 廣使物之事
 大明一被是御一書之事

對大内勅使告都之條目
秀吉云矣於之切立御誓與之
朝鮮船之漸之致事
大坂西丸水能之變
朝鮮陣七年之事

大同記十五卷

○契丹至計以清心至都教入勢事
主計以せらんく、境にを付度く、能合我村多里
屋垂と放矢振振或事甚以、斯之金堂
云、而地之利官者、者にりし、要害に振、事契丹と
之右内村、同組と勢之、馬回之組、以之人林
合五千人、子橋中と云、概之、九鬼田、所無誘射、野
ゆん、集射、山内甚と、其之、勢之、子孫、置之、王計、以
ハ威、鏡之、至て、勢之、入を、途之、百姓、等之、事あり
子、任之、せ、振育、之、功を、集、水民、等之、事あり

天

造

奉
奉
奉
奉

に蘇えりし。越年之役も年々少く。彼一作之
也。倭一りせ。其に應とて。正計以思ひて。事
う。海音（海音）と。臨一守り。正計以思ひて。事
あり。敵之中に。少く。移り。年々
こ。一。更に。都表之。一。撥等と。鑿起釜山浦の
世を。因。由。教を。意中。征伐。一。正計以を
よ。ひ。も。う。可。能。と。備。あ。中。初。云。身。家。再。之。人。之
事。の。前。進。判。に。く。早。し。引。歸。一。都。と。守。備。一。正
吉。心。月。九。日。死。脚。到。東。と。賀。蘇。承。元。と。也。引。脚
作。り。今。と。生。九。金。山。橋。中。あ。城。に。跡。一。至。は。北。勢

成。引。取。で。不。計。多。り。と。威。鏡。之。一。と。秋。敵。立
分。在。林。軍。人。休。務。造。ち。又。八。節。勢。之。内。と。川。子。二。子
五。百。教。合。五。子。ち。之。右。衛。尉。之。途。と。出。り。り。事。心
も。好。し。は。い。く。急。け。進。九。條。之。そ。く。河。水。氷。と
流。し。す。ま。宮。と。也。も。な。け。進。か。ん。り。と。急。ん。と
約。の。足。り。と。獲。り。ゆ。り。日。長。漸。積。正。月。九。日。先。勢
金。山。に。着。陣。し。已。ま。し。敵。如。福。麻。竹。葦。打。圍。之
攻。に。及。り。就。要。と。之。如。蘇。立。本。下。知。成。一。と。突。き
つ。う。と。城。内。之。勢。も。突。て。お。合。戦。ひ。進。く。了。
三。子。作。討。捕。ぬ。斯。く。と。右。衛。尉。之。回。一。敵。寄

大正三

三

研
排

来りて責入人とせし時。突てお追敷。一勢ひは繁も追
ふ。要路と取らるるに討死し。伊原勘平并か
市ん忠。これ外百餘人いたし。之を打ち死。作。た。之
者も子死一生之約と免生。二度名くおじく。作と
之ハ。長子兄弟等とす。これ悲し。じも有る。哀れ
も。此也。立本軍人ハ討死。若九の骸骨と戻し。可
好。立。日。つるに陣揚。都路所。引にたり。後
正月廿七日に陣。了。好。立。日。撥。原。播。磨。等。一。在。て。入
殺。向。一。五。二。日。と。追。敵。悉。く。伐。盡。し。陣。揚。を。一。く
洛中。總。た。登。取。城。兵。一。守。り。と。

○小西於東海邊振務成事

小西於津守ハ邊東場。東海邊。に。至。て。鐵。碓。を。振。つ。り。
恰。信。忠。云。天下。初。入。之。猛。威。に。似。たり。此。由。將。軍
被。討。死。及。深。入。一。越。度。を。執。り。再。生。制。し。
可。然。地。を。見。計。救。テ。所。要。害。を。掃。永。く。て。也。降
之。行。不。二。三。日。油。取。と。たり。然。り。小。西。子。と。力。を
走。波。傳。信。討。馬。傳。信。を。馬。刑。し。つ。法。外。大。村。新
八。郎。也。治。美。校。也。橋。津。也。り。亦。主。受。め。本。戸
作。右。衛。尉。也。執。二。万。餘。騎。小。西。り。要。害。を。大。掃
陣。と。之。め。ち。中。に。一。之。を。所。の。要。害。を。掃。え

寺より都よりし素子とく。百廿千里はるる乃
 城たぐくしてハ海路おやつる。とて。大友宗
 麟二十ヶ所。田甲北支も二ヶ所。毛利右馬頭
 支子小早川統元も七ヶ所。吉川元就の射子。柳
 澤三千。ちまうくして三ヶ所。凡て七ヶ所。之要
 言。善精。等。よ。ま。に。治。治。一。在。俾。之。祈。救
 年。と。強。く。ま。ま。さ。は。か。り。将。軍。ト。も。之。控。り。
 小西の頼依。小西の助。子。の。大。友。助。成。と。一。
 急。難。と。手。に。敵。の。P。と。な。り。の。心。を。ま。に。大。助。
 一。羽。鮮。乃。急。難。と。敵。り。ん。ぐ。た。め。李。郎。耶。

川

二年 軍兵作

碩。郎。耶。支。将。軍。に。百。方。騎。之。勢。を。お。保。文。録。二。年
 正月二十六日に小西の要害を幾度も攻めたり。取
 之にかり。つと。く。や。標。津。の。ハ。勢。を。お。思。ひ。と
 急。一。子。死。一。生。乃。身。と。決。ぬ。漢。南。之。勢。あ。り
 くと。て。唐。屏。風。と。立。り。か。く。十。重。廿。重。に。お。り
 来。り。り。と。味。方。之。小。将。が。り。鉄。炮。を。使。て。備。へ
 定。矢。子。村。を。ま。て。も。不。通。さ。に。せ。ぬ。ま。り。心。を
 一。殺。に。して。昔。我。せ。る。十。死。一。生。乃。功。も。ま。ま。と。せ。と。
 下。知。一。お。我。ひ。一。人。して。廿。人。三。十。人。を。ま。り。し
 せん。と。事。何。や。討。た。る。と。事。と。せ。と。若

と云く。や。か。は。な。う。と。我。ひ。ま。ら。り。か。り。本
 戸。作。右。邊。射。小。西。に。急。を。し。た。の。ま。い。く。後。ハ。某。ハ
 た。一。ひ。り。ん。と。云。一。く。ま。く。要。害。に。火。を。掛。
 煙。の。ま。い。き。ま。に。一。し。者。の。に。あ。や。と。も。靴。さ。ま。と。逃。
 命。を。逃。て。急。行。り。小。大。友。の。鱗。先。を。見。く。
 此。法。を。も。と。申。一。小。西。を。待。も。付。ま。と。お。て。都。を
 さ。し。て。落。に。く。り。ま。ま。め。作。右。邊。射。小。勢。た。り。と。も
 か。り。つ。ん。ど。敷。度。後。一。合。せ。敵。を。逃。拂。ひ。捨。列
 と。逃。け。り。に。大。友。二。ヶ。所。の。城。小。西。火。を。掛。急
 田。軍。也。や。り。要。害。に。ら。つ。つ。ま。も。ま。い。ハ。甲。也。及。也。

お。向。ひ。云。な。う。ハ。大。友。敗。軍。乃。射。小。西。後。ハ。漢。南
 勢。幾。守。ま。た。く。取。圍。三。井。果。一。ハ。某。に。も
 逃。ひ。ん。と。云。捨。く。逃。一。也。去。た。汝。乃。切。束。お。が
 つ。ま。い。き。に。同。く。お。向。ひ。ぬ。急。を。し。て。孫。一。敷
 合。合。せ。若。我。せ。ま。は。け。り。よ。一。至。剛。と。う。一
 一。に。及。ま。い。き。と。い。い。と。せ。捨。入。れ。を。福。り。ん。と。て。
 飯。を。い。と。ま。も。人。馬。飽。ま。す。に。何。法。一。く。り。是
 よ。ま。の。急。ハ。田。せ。ん。と。ま。一。く。ら。某。勢。ハ。友
 成。乃。我。に。つ。ま。い。き。く。ひ。た。り。是。よ。り。ハ。こ。も
 か。く。も。作。子。任。せ。し。と。小。西。ハ。さ。ま。い。に。別。一

大國元

...

本陣上
栗屋上
小早川筑
前守隆景
呂下字

より。甲斐田内後、兵衛尉殿より、度々請ねつ
とめり。道^{カケヒキ}通り由と好し。猿^{モカサ}猴^{カサ}の^{ツキ}樹^{ツキ}上^{ツキ}
より、各々、都^{ツキ}を^{ツキ}色^{ツキ}に^{ツキ}美^{ツキ}し。各
所、い^{ツキ}い^{ツキ}軍^{ツキ}評^{ツキ}後^{ツキ}を^{ツキ}一^{ツキ}に^{ツキ}立^{ツキ}花^{ツキ}を^{ツキ}將^{ツキ}監^{ツキ}を
こま^{ツキ}務^{ツキ}か^{ツキ}く^{ツキ}ま^{ツキ}ま^{ツキ}。合^{ツキ}我^{ツキ}に^{ツキ}抗^{ツキ}ら^{ツキ}ま^{ツキ}一^{ツキ}く^{ツキ}付^{ツキ}
む^{ツキ}と^{ツキ}こ^{ツキ}ま^{ツキ}を^{ツキ}救^{ツキ}く^{ツキ}。甲^{ツキ}斐^{ツキ}守^{ツキ}善^{ツキ}も^{ツキ}大^{ツキ}く^{ツキ}
度^{ツキ}と^{ツキ}一^{ツキ}に^{ツキ}是^{ツキ}の^{ツキ}。輝^{ツキ}元^{ツキ}也^{ツキ}。毛^{ツキ}利^{ツキ}七^{ツキ}に
兵^{ツキ}未^{ツキ}尉^{ツキ}。栗^{ツキ}屋^{ツキ}四^{ツキ}兵^{ツキ}未^{ツキ}徳^{ツキ}文^{ツキ}内^{ツキ}の^{ツキ}備^{ツキ}井^{ツキ}上^{ツキ}五^{ツキ}百^{ツキ}
備^{ツキ}尉^{ツキ}。若^{ツキ}方^{ツキ}有^{ツキ}や^{ツキ}こ^{ツキ}ま^{ツキ}。久^{ツキ}も^{ツキ}や^{ツキ}く^{ツキ}度^{ツキ}と^{ツキ}請^{ツキ}ね^{ツキ}い^{ツキ}と
て、五^{ツキ}千^{ツキ}余^{ツキ}騎^{ツキ}に^{ツキ}入^{ツキ}ら^{ツキ}り。駿^{ツキ}平^{ツキ}十^{ツキ}文^{ツキ}字^{ツキ}に

馬^{ツキ}城^{ツキ}入^{ツキ}我^{ツキ}の^{ツキ}。久^{ツキ}も^{ツキ}。終^{ツキ}に^{ツキ}海^{ツキ}ら^{ツキ}り^{ツキ}立^{ツキ}し^{ツキ}。こ
の^{ツキ}に^{ツキ}入^{ツキ}ら^{ツキ}。や^{ツキ}に^{ツキ}。備^{ツキ}方^{ツキ}也^{ツキ}。相^{ツキ}監^{ツキ}面^{ツキ}を^{ツキ}振^{ツキ}
後^{ツキ}陣^{ツキ}に^{ツキ}突^{ツキ}く^{ツキ}。度^{ツキ}と^{ツキ}一^{ツキ}に^{ツキ}。甲^{ツキ}斐^{ツキ}守^{ツキ}善^{ツキ}も^{ツキ}大^{ツキ}く^{ツキ}
世^{ツキ}。敵^{ツキ}に^{ツキ}に^{ツキ}我^{ツキ}の^{ツキ}。追^{ツキ}前^{ツキ}に^{ツキ}。一^{ツキ}に^{ツキ}。討^{ツキ}務^{ツキ}唱^{ツキ}凱^{ツキ}歌^{ツキ}
都^{ツキ}に^{ツキ}有^{ツキ}。二^{ツキ}十^{ツキ}百^{ツキ}騎^{ツキ}之^{ツキ}。勢^{ツキ}。比^{ツキ}由^{ツキ}。因^{ツキ}と^{ツキ}い^{ツキ}
一^{ツキ}く^{ツキ}。い^{ツキ}と^{ツキ}。敵^{ツキ}の^{ツキ}。い^{ツキ}つ^{ツキ}。い^{ツキ}と^{ツキ}。一^{ツキ}騎^{ツキ}。上^{ツキ}。近^{ツキ}お^{ツキ}
三^{ツキ}里^{ツキ}。回^{ツキ}。里^{ツキ}に^{ツキ}。一^{ツキ}に^{ツキ}。て^{ツキ}。ま^{ツキ}ら^{ツキ}。つ^{ツキ}。を^{ツキ}。ま^{ツキ}ら^{ツキ}。く^{ツキ}。の^{ツキ}。勢^{ツキ}
を^{ツキ}。持^{ツキ}。身^{ツキ}。既^{ツキ}。子^{ツキ}。か^{ツキ}。け^{ツキ}。と^{ツキ}。合^{ツキ}。我^{ツキ}。を^{ツキ}。挑^{ツキ}。立^{ツキ}。花^{ツキ}。を^{ツキ}
ま^{ツキ}。う^{ツキ}。勢^{ツキ}。を^{ツキ}。救^{ツキ}。り^{ツキ}。ん^{ツキ}。と^{ツキ}。身^{ツキ}。の^{ツキ}。く^{ツキ}。に^{ツキ}。の^{ツキ}。志^{ツキ}。是^{ツキ}。を^{ツキ}。増^{ツキ}。田^{ツキ}
石^{ツキ}。田^{ツキ}。大^{ツキ}。首^{ツキ}。か^{ツキ}。り^{ツキ}。と^{ツキ}。一^{ツキ}。人^{ツキ}。も^{ツキ}。お^{ツキ}。く^{ツキ}。合^{ツキ}。我^{ツキ}。と^{ツキ}。ま^{ツキ}。將^{ツキ}

軍此制し。治書。日。家。世。と。大
乃。眼。に。角。と。立。制。一。ク。り。考。家。八。軍。旅。八。番
目。之。次。中。有。事。也。目。前。に。あ。の。地。方。と。人。と。と
多。い。ゆ。え。日。中。之。軍。終。つ。た。ま。り。て。一。つ。の。か。た。り。
流。法。と。用。る。も。破。家。も。軍。に。納。め。ら。れ。た。り。只。か。く
川。と。救。り。ん。と。備。と。と。流。一。一。度。に。意。と。か。く
且。台。構。た。と。将。監。と。我。法。と。横。徒。と。突。か。く
更。東。西。に。ま。り。結。ひ。南。北。と。遊。た。り。一。家。お
然。し。し。と。も。立。花。は。と。う。勢。は。さ。う。た。と。し。た。た
に。遊。編。と。なり。味。方。勢。と。と。り。て。市。と。り。落。合

軍
幸
東

東。行。く。三。万。八。千。餘。討。捕。し。り。と。利。身。鼻。と。た。た
受。下。へ。各。連。判。と。い。ふ。と。一。身。ね。考。家。の。法
ひ。一。戦。功。を。甚。長。せ。り。
源。日。是。を。分。目。乃。合。戦。と。い。ふ。ゆ。え。思。へ。ん
立。花。の。成。切。と。も。朝。鮮。陣。中。と。遊。に。は。と
幾。あ。り。た。を。ね。監。是。也。を。合。戦。と。上。に。あ。り
と。ん。の。お。り。と。り。と。ん。と。幸。と。を。せ。し。事。と。あ。り
と。と。い。つ。た。り。む。じ。や。り。
三。身。の。法。勢。と。一。連。都。へ。入。事。
三。身。の。人。と。一。考。家。と。一。用。せ。し。て。合

大
國
七
十
五

我子赴之^{ヲモト}一事也。奇^{キウ}怯^{ケツ}也。思ひあらん佐助力
戦引具^ケ一人我之勝負を足^スも固^カもせと。却
へたもハ入^イりけり。考家ハ軍に勝^カく。本陣^{ホンジン}
ゆりし。右^ミ左^サの戦^{タテマツ}。二番^{ニバン}子^コ付
捕^ト一^{ヒト}首^{ウチ}と。んせんと。二^ニ重^ヘの^ノ為^ニり。た。た。や
敵^トとて。誦^{シヨウ}く。ま。一^{ヒト}。我^ガも。兵^{ヘイ}十^{ジュウ}万^{マン}子^コの^ノれ。
と。和^ワハ。是^{コト}。陣^{ジン}死^シて。ん。や。と。思^{オモ}ひ。け。り。と。二^ニ重^ヘの^ノ
ゆ^リ。將^{シヤウ}軍^{クン}人^ニ何^{ナニ}と。り。は。至^シす。事^{コト}も。あ。ら。ん。と。
て。其^{ソノ}之^ノ刻^{トキ}より。敵^トへ。急^{イシヤク}を。入^イり。て。來^キ。陣^{ジン}乃^ハ
掃^{ハク}お。り。て。ま。う。り。考^{カウ}家^カ右^ミ軍^{クン}に。く。侍^シ。村^{ムラ}

既
本有先
小早川五
字

監物として。泊^ト。至^シ。休^ヒ。を。か。く。志^シむ。

卒^{ソツ}以^テ。敵^ト力^{リキ}。言^フ。上^ノ。一^{ヒト}。叱^シ。日^{ニチ}。朔^{ガク}。日^{ニチ}。漢^{カン}。南^{ナン}。勢^{セイ}
百^{ヒャク}万^{マン}。騎^キ。至^シ。平^{ヘイ}。出^デ。表^{ヒヤウ}。と。出^デ。強^{キヤウ}。拍^{パツ}。破^パ。小^{シヨウ}。西^{セイ}。接^{セツ}
津^ツ也。要^{ヤウ}。害^{ガイ}。院^{エン}。都^ト。也。也。色^{シキ}。至^シ。本^{ホン}。陣^{ジン}。元^{ゲン}。立^{タテ}
花^{ハナ}。等^{トウ}。挑^{チョウ}。合^カ。我^ガ。也。之^ノ。勝^{シヤウ}。友^{ユウ}。區^ク。也。某^{ナニ}。雖^{シテ}。欲^{シテ}。為^ス。助^{ツク}
成^{セイ}。三^{サン}。重^ヘ。の^ノ。信^{シン}。心^{シン}。之^ノ。首^{ウチ}。達^{タツ}。之^ノ。制^{セイ}。之^ノ。雖^{シテ}。死^シ。也。
母^ボ。之^ノ。助^{ツク}。成^{セイ}。也。之^ノ。乘^セ。心^{シン}。為^ス。討^{ツク}。死^シ。無^ク。疑^ヒ。之^ノ。物^{モノ}。乃^ハ。不^レ。用^ス
三^{サン}。人^ニ。之^ノ。下^カ。知^チ。お。救^{クウ}。遂^{スエ}。合^カ。我^ガ。也。大^{ダイ}。利^リ。三^{サン}。萬^{マン}。八^{ハチ}。子^コ
係^{ケイ}。討^{ツク}。捕^ト。之^ノ。平^{ヘイ}。也。有^リ。宜^イ。治^チ。也。故^{コト}。也。久^ク。く。
務^ム。云^{ハク}。

正月二十七日

後方軍お世に長

秀家

安威持津も愛

安威持津も愛
一軍評定之時漢南勢い亦多勢なり
に

一合戦は後におおむらひと。立花堅
一輝え先勢引おにんえ。櫓方
に

本
事

将監突然退くは事。

一合戦之勝反と不圖而之事の法場を引
つる都へ逃入の事。

けふたのう申以として。はつりくわ。ばあ人を
日子續くと。有二月七日。至平右衛門
けふの安威持津も持家も。又。將軍悦
ひ給ふ。お脚之者具して。糸巻と。え
く。持津も庭上よ。まぬ。立出給て。あ
見及ひ。事た。志のう。結まよ。作ら
よ。ま。

一立花小早川の合戦に上にあつた大和

の者まゝと云く被中一と云ん

一毛利慶乃先手危く見え一時搦方至

ゆ一合せ大敵と云くうら休一

一合戦に彼方と者か守向すと云く二人

之由事の前敵と云く殺と云く入

給ひくはたす

は亦然つらうと云く推たさうにけ

まをたうと云く及不中と云く將軍

と云く一石斜水気色みく花柳

西人子銀子拾枚被下立言日休息と云く

也骨の血もやうらの表につらと云く音

作らり

去月廿七日に飛札昨七日に大雲

大明もその國廢亂と救らんため李郎耶

碩郎耶言方詩と云く率一と云く出強少西

と云く破里脱子都にちうつと云く毛利右馬

先勢と合戦といと云く勝及まらうと云く

依くとも自明と云く軍法と破里建と云く

に突崩一三萬八子條討捕之由と云く戦功不

可勝計ツタヘ。寔助漢カク。人。橋左近。お監爲ミヤ。も。う。ら
 死。一。部。に。至。く。と。う。ら。龍城リウジヤウ。之。神。に。た。り。ま。り。
 う。一。乃。其。乃。加。勢。重。て。は。つ。い。と。う。お。に。大。切。ま。り
 忠。義。莫。大。に。先。之。事。作。事。
 一。三。人。之。事。の。其。と。度。合。戦。を。制。一。と。う。の。義。の。合
 う。存。分。と。い。云。あ。う。う。不。及。其。地。中。の。向。後。の
 さ。屋。う。に。臆。一。た。う。下。知。の。用。の。被。り。ま。り。く
 山。事。

諫曰。之。之。内。有。甚。切。者。又。知。ら。う。の。事。
 理。之。南。北。た。う。ま。り。信。長。公。の。屋。う。の。使。ま。り。

徳子兵助。野。村。之。十。郎。と。度。な。し。は。つ。い。と。ま。り。也。
 一。立。花。乃。持。監。小。早。川。筑。お。ま。り。非。合。戦。之。上。百。方。騎。之
 多。勢。よ。得。大。利。事。を。ま。り。と。い。と。と。ま。り。と。い。と。い。候。
 一。は。つ。く。り。違。せ。一。由。得。ま。り。所。思。ま。り。不。始。一。今。後
 子。の。又。味。方。之。合。戦。之。色。あ。り。く。ん。え。一。不。橋。左。近
 お。監。は。幾。う。う。多。勢。を。突。退。り。由。武。勇。之。甚
 に。い。ま。り。感。状。を。い。り。ん。ま。り。出。し。と。い。と。い。ま。り。と。い。と。
 一。と。う。に。一。違。は。事。右。条。し。如。件。

二月八日

秀吉御朱印

羽柴俊前事相受

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '大信記' and '十五'.

毛利右京大夫秀元感状 後 叙宰相

今度漢南李郎耶碩郎耶与將軍引率百

万誘之軍兵胡鮮与極急難俄然令出張各

及難義也陣軍勢周章騷動決定區々

方為先路挑合我即切崩唐人首三百八十

餘級討捕唐人敗小仕中頃備前中納言取

派進之執波△字石屋山少早川吉川三死已

下右今之至剛武勇不始今併之官雖為

吾年下知無比新枝思石山討討山加友

大同二年

十一

身許勢城之初^{イナリ}後^ゴ結^ツ方^ハ軍^ツ塔^ト行^ク也。
 而度^タ之^ノ御^ミ神^{カミ}妙^{タマシ}以^テ尔^ノ不^レ抽^キ忠^ニ節^ヲ作^ル。移^シ改^メ
 胡^コ之^ノ名^ヲ叙^シ百^ニ位^ヲ可^ク致^ス加^シ沛^ニ慶^ニ者^モ也。仍^シ
 感^ズ状^ヲ如^ク件^ノ。

文祿四年二月廿八日 御朱印

毛利右京大夫

○長谷川教直秀一直云々事
 秀次云々之^ノ初^ニ解^キ後^ニ海^ニ之^ノ人^ノ之^ノ包^ク之^ノ一^ノ羽^ノ也
 要^ス以^テ之^ノ事^ヲ一^ノ時^ニ本^ノ村^ノ常^ニ陸^ニ介^ノ乃^ハ一^ノ箇^ノ眼^ノ半^ノ地^ノ惟^ニ
 子^ノ之^ノ故^ノ百^ノ魚^ノ錫^ノあり^ニ此^ノ書^ノ事^ノも^モ他^ノ一^ノ矣^ノ之^ノ見^ル
 是^レに^ハり^ニ本^ノ村^ノ之^ノ所^ノ之^ノ故^ノ之^ノ一^ノ也^ノ乃^ハ一^ノ抄^ノ并^ニ
 固^ニ白^ク受^ク後^ニ之^ノ如^ク此^ノ也^ノ之^ノ不^レなり^ト之^ノ之^ノ之^ノ之^ノ之^ノ之^ノ
 く^レ後^ニ一^ノ故^ノ秀^ノ一^ノ打^ノ中^ニ下^ニ睡^ム之^ノなり^ト。良^ク有^ル之^ノ若^ク
 坤^ノ朝^ノ之^ノ事^ノ有^ル也。二^ノ度^ノ秀^ノ次^ノハ^ハ之^ノ見^ル舞^ル
 中^ニ海^ノ之^ノ事^ノと^モ思^フ不^レなり^ト。二^ノ度^ノ後^ニ海^ノ一^ノ抄^ノ并^ニ
 者^ノハ^ハ之^ノ皆^ク秀^ノ次^ノ之^ノ如^ク也。三^ノ年^ノ三^ノ月^ノ打^ノ立^ル一^ノ

大日本書紀

十四

より終に云れしのがききし味いしとて下ろ
 器に當りし如くしん。海秀次之如くしん
 あるじ百之物は多配し。左陣之面より
 明吉信として。丹羽成目色し。兼て如く若
 勇之如く。伊州と稱し。木村元と
 同し。その如く。各系多し。古河信
 之物と奉りたり。
 源日長谷川。童名竹とて。信長之小姓
 者。その如く。信長侯に。にも。御らる。ら
 事。も。た。く。直。心。に。似。也。取。り。て。人。ら。り

○大のしりし使者之事

先惟敏在撃舟軍。文禄二年二月十六日西江と
 云所にて渡出。小西将津中より書管有
 手趣。八五年八月下旬に約す。ご。ご。有使者
 人月之終。秀吉之所。内と。の。及。和。睦。こ
 乃事。明。り。折。第。小。西。八。飛。山。を。一。ぐ。通。辨。あ
 聖福景徹。玄嶽西堂を以て。在。撃。舟。字。是。に。對。面
 多。さ。せ。筆。談。あり。し。と。趣。小。西。所。由。家。來。一。人。と
 計。い。ぬ。人。も。い。う。あ。ん。と。及。き。を。急。備。中
 細。之。及。備。田。石。出。射。石。田。治。部。か。備。大。谷。飛。部

大谷飛部

十一

少愆。小早川氏後。降景一右之。道。遂。新。孫。以。速。判。
段。之。上。之。受。保。曰。至。大明。國。振。務。成。作。也。も
益。不。り。也。一。又。取。一。朝鮮。を。陣。も。上。下。之。被。
芳。莫。右。の。事。不。り。也。し。唐。使。事。朝。一。請。和。
任。せ。れ。雖。不。れ。之。榮。お。調。可。一。之。昔。所。也。簡。
め。り。固。之。守。恩。將軍。の。し。り。之。九月。十七。日。唐。使。表。
人。信。取。於。山。に。旅。館。と。い。ふ。所。を。宿。留。せ。能。し。可。
い。可。り。昔。有。り。と。付。置。小。西。谷。を。山。崎。所。で。
急。つ。半。運。至。右。後。屋。を。曉。之。如。子。委。云。
上。と。い。う。各。と。談。合。可。能。格。工。お。調。可。り。

手
書
り

方。り。う。う。う。う。聖。三。朝。又。朝鮮。一。渡。海。一。所。記。之。
題。備。考。中。知。之。事。増。白。之。白。年。之。一。後。一。以。
唐。使。あ。人。回。色。一。各。も。名。漢。軍。人。未。了。和。艦。の
取。り。と。け。生。と。即。気。危。も。可。一。を。可。り。
唐。使。宿。之。家。康。之。利。家。一。可。也。所。一。お。針。
い。可。被。り。昔。お。禁。下。総。考。と。以。被。御。考。り。
一。大明。正。使。冬。將。謝。用。梓。別。号。竜。岩。
江戸。大。洲。之。家。康。卿。
一。副。使。越。後。牛。保。一。貞。貞。別。号。准。吾。
加。賀。大。洲。之。利。家。卿。

加賀大洲之利家卿

右軍統軍走吉也

吳國之馬をともむるの事にお終り。長も

板船の心大屋に終り也。五月十日より日

井りももあらとて。此走有し。ならん。そよ

と後八人に被仰付十日終りく。所一。り

吉也。

一番 五月九日より六月朔まで。此中深草

二番 六月二日より日方まで。此中深草

三番 七月九日より日方まで。此中深草

四番 七月九日より七月朔まで。此中深草

五番 二日より十日まで

親吉也

右軍統軍走吉也。此中深草

所之内とて。此中深草

二番使。五月朔まで。此中深草

増田右衛門尉内

高小左衛門尉

膳部源氏

井口清右衛門尉

石田信親少将内

大島甚右衛門

附

附

大島甚右衛門

十七

大谷取部小幡門

小幡門
小幡門

小西橋津内

小西与七兵衛
結城河原

右有人充量取結城事馳走
一八八

二月使二月廿日所對面之事

三缺

折會権

即至其

此配膳衣

御前

御前
八幡侍候

此取
中江式部左衛門
山崎右衛門

甲 弓程候之衣

江戸大納言

加賀大納言

浪舟中納言

丹波中納言

左和申納言

越後宰相

次之間

好榮三右衛門

龍野侍候

有子中務少輔

戸田長義

本

河原下總守

河原肥前守

氏家志摩守

奥山作渡守

河原守

尾子守

新庄渡守

唐使一冊

以名刀

日

古田渡部守

古田志摩守

富田友正

上田友正

三上友正

長谷川友正

尾子

長谷川

日

一紙子二百枚

一紙子二十枚

一紙子三十枚

一紙子百枚

一紙子五百枚

一紙子百枚

唐使に紙幣を下げた

紙幣の形

紙幣の形

紙幣の形

紙幣の形

聖

秀吉公ハ床の目ハ半一紙ノ。榮之。之何小
也。い。乃子。三。言。反。出。射。二。上。与。之。印。△
祇候大ま。外。庭。之。衣。子。多。人。甚。是。所。り。
書院之。色。白。も。甚。く。令。好。り。

床乃

虚堂

玉碯
馬齒
相山

十

有得。亦。及。為。覺。寤。寢。養。甚。以。重。矣。初。に。も
如。此。之。外。無。八。種。之。以。言。感。一。妙。之。さ。を。所

の。所。さ。く。し。さ。り。む。人。乃。乃。婦。所。に。あ。る。と。い。ふ。り

芳玉。彌。常。牧。溪。等。真。畫。日。本。所。秘。也。

大同。亦。秘。を。正。告。供。
毫。下。一。覽。精。征。其。真。畫。可。也。

願。觀。之。

日本。若。室。以。為。畫。筆。者

大。明。人。素。中。也。不。使。也。

以。畫。名。家。者。甚。多。不。知。

貴國最先是誰之虛也
以玉礪為身不為齒第身二以常收後第
第之

中國有之若象當不見之種極真奴者為
送然身則本

大國所秘之名畫然一覽如何
妙

所妙之油二使回

中國適求大方家必得以此送

大國不敢虛謬也以此所少之名示知

朝鮮全羅慶尚道是十七年國路過先
緯初各遊路是朝鮮虛獲也故至道身未
取兵待大和親之實而收兵名必矣其虛獲
之約解大和示豈不謀之乎且中和親之
實遂結為國之約身以日本為先延伐龜
何不悔大和之學握乎日本路寄碎身
欲砂大明皇帝是

表示

大國之意言之中肯信予心甚快朝鮮虛獲
雖是實坐不然又不能無疑故遣使求親

真否。今一聞云。己固然於胸中。即能之意。

朝廷

命下。之法。可科。之。而。緣。係。不。經。心。再。差。使。事。會。貴。國。力。知。此。不。言。為。不。禱。且。國。

大國。越。既。之。興。何。如。倘。大國。一。使。之。云。亦。可。信。請。借。寶。劍。剖。心。以。報。之。死。無。悔。也。多。言。

心。多。道。不。敢。得。措。詞。矣。今日。初。通。情。思。互。知。誠。心。然。身。自。是。亦。有。

云。和。親。之。像。則。甄。任。

二。使。媒。介。若。中。常。著。藝。家。伴。禪。師。來。

啜。若。料。不。盡。者。是。

大國。所。欲。也。片。時。要。項。俾。

麾。下。俾。備。以。自。來。誠。心。奏。

天。朝。而。能。欲。回。和。親。之。實。因。待。吾。一。玉。

回。命。為。

台。為。於。此。言。之。外。無。他。志。請。思。梅。收。無。

之。通。必。在。

己。躬。震。懾。者。也。

大國。之。忠。誠。可。以。通。之。己。也。神。奏。

天子嘉收必矣。若有越疆之禍，持遣使求
請貴國之兵助之，亦可。但今歸者已
十年。下茲九邊清寧，已下古之矣。茲又得
中國通和千數年之盛事，可嘉。尚
何樂如之。且日往能回吾之處，亦

大同之意，每備部

大同亦如

二使誠心，至如人之龜，雖在干茲，我全軍摩
尚友之居士先，用臨臘雪際，以臨於之
是一時遺恨也。如有遺兵於山之麓

大同誠心發

天朝遠示和親之實，日在若不見之實
則多收兵乎。

大同以之，長生吉，建以長四人，第誠心之知
法般之，交與四人，其誠之。之歸者，誠心
之，如令況

西序下，俱

天朝誠心之，古也。

大同視四，古也。

天朝視

二使者必矣。請他日莫昧。

大同所親也矣。思旃。

大同即死於旁劍之下矣。

受下報

麾下先是三年告朝鮮王曰於大何有

新吏躬解送之於大何可也。丁越朝鮮差

三使也。願矣。三年之間。雖待之。遂不聞

其。實。亦。起。兵。者。全。不。忘。死。

大明只起云。而欲陳早。隱而已。此明朝鮮。遠

臨。或。傷。兵。伐。朝鮮。蓋。是。起。自。的。解。沈。海。

平。之。矣。

天朝令差二使

命。第。房。國。此。事。若。慢。朝鮮。亦。延。

大同直入遼東。具以祈事。天聽。

二使。歸。去。以。此。意。

將。奏。亦。無。意。延。多。如。親。之。策。何。加。音。思。旃。

貴國欲通

中國之情。去年八月先錄。通於沈德。數

沈德。堅。回。奏。

天子文武時任素何朝鮮不以實之是也後有
今差二使來之

大國正欲求其真情何如茲示不知與先終

之之若出一口則無虛延可知而二國之

交亦有不肅矣不寧何大事矣而悔矣

大國發下之其意也

大國以和親大概書在懷裏雖私而決之

似無己之及國白故使告之其大概件

之即今之供一覽以所看結特奏

示和親之實則可也頃日或使或書亦能

問之

大國猶疑焉今於

面前俾于僧書問之初信靡毛下所答

大國以二使所說為

大明執政者所說毫髮不書虛誕者是

大國所欲也請以

大國書置之手裏為實誕又

大國以麾下書留之箱中為實誕思誦蓋是

大國之意也

大明若慣朝鮮虛誕則日本怨恨益深而難致

徒誕證

忠誠速以麾下之意顯和親之實而俾
 大同歷覽北京及處之名區則是
 麾下良媒乎向所謂在懷裏之大概凡今
 所書惟同重供一覽今日先閣焉

五月廿八日

增田右衛門尉長盛
 石田治平藩三成
 大谷刑部少輔吉繼
 小西橋津守行長

○就大明國之兩使歸朝御也等之事

日本國前閔白 秀吉 書

大明國之使 遊擊平將軍沈宇愚 麾下大明
 日本為和親於朝鮮國趨而入予前驅營中切
 詢起兵故實猛將也長盛吉繼三成行長四臣
 具奏達之矣急雖可裁渡報前年委閔白職
 於秀次秀次可達之於
 天聽也任予思慮雖可決大事不系大綱者世
 禮之圖之

王京去此地水雲遠遠依之 大明使者停

瓊

之

台與於此宮中向涉猶豫不捨晝夜以命侍臣
馳羽檄書請相達可投回報餘者附回臣
古頭書底蘊方物如別錄領納恃長刀十振
投贈焉以黃金纏裹之不宣

仲夏日

秀吉朱字

達沈惟敬遊擊將軍

日本國前國白

秀吉

書

大明之使於船入之地秀吉云催船遊事

肥列名護屋之境地ハ渥曲ハ然子真有くま

ナリ下より百町余り海水わたり入く四方の風

水色波々知と深き事底ナリと丹似しり枝

亦便見物一嘉陵三百里之山水ハ不足せ

ふ也。蒲洲十里之風景ハる足りしと。遊辭

之志にまつ感一あり所

重疊青山湖水長无边緑樹顯新粧遠來日本

傳明詔遙出大唐報聖光水碧沙平連日影雨

微煙暗送斜陽回頭千態皆湘景不覺斯身在異郷

く。あまの志を足つとて。もろくは。おまた
ふもろく。そのつと。く。文よまん。と。葉の
將軍も船中へ入せう。く。勅使も外。諸侯。大。ま。に
郷食。膳。給り。酒。宴。ゆ。り。く。たり。を。後。以。結。む。可
被。格。と。く。歎。世。人。集。ま。り。て。召。く。初。め。給。り。言。ふ
海上。の。郷。音。後。也。龍。神。と。感。應。有。り。て。光。く。て。者
也。勅。使。と。身。に。系。り。相。首。首。眉。を。た。ま。感。り
ありぬ。實に主人も。新。向。向。り。ま。と。い。や。と。り。て
て。天。氣。ね。む。や。く。に。海上。と。移。り。なり。く。ん。物。の上
下。も。實。に。化。せ。し。也。越。り。や。り。子。物。一。海。世。と。三

ま。り。て。に。り。二人の勅使。再。三。換。五。臺。船。中。の
て。所。来。り。の。ひ。聖。日。六。月。十。日。之。朝。山。里。に。お。り。て
所。葉。給。り。ぬ。落。地。の。多。く。の。葉。園。を。も。あり。葉。の
里。の。つ。り。物。ゆ。り。て。花。本。枝。を。連。珠。若。花。よ
流。し。つ。り。く。山。里。の。名。に。應。り。ま。り
は。葉。ぬ
一。玉。石。帰。帆。と。繪
一。細。口。之。花。入
一。朝。四。肩。衝

棚之飾

一 茄子乃茶入 内茹之金に在

一 甚玉王目 一金

一 多んむけの水子 一水子 一が

一 糸牙代茶抄 一何七不言れ磨のこに

一 白ぬかもし物 一あやぬ 一茶と手つ

一 一々感 一あやぬ 一茶と手つ

一 一々感 一あやぬ 一茶と手つ

一 神皇國人の中よりかく 今世傳者乃風

一 尺さて 一あやぬ 一茶と手つ

一 一々感 一あやぬ 一茶と手つ

一 玉硝子本の繕

一 甚ゆの花入

一 富士香炉

一 肩衝茶つらん

一 縁平のかさ

一 一々感 一あやぬ 一茶と手つ

一 いもがらの水子

一 茶入尻懸

一 井土茶碗

土

大同元

此乃乃くハ法候大吏乃前小。榮去在阿
 弥子被作付御幕所く終りぬ。六月廿六
 日有使ハ差酒儀有在る人。所懸の事
 ましくしとく。宮よりく。兩部ハ江戶。と来在
 大浦。寺次志摩与。在阿比と被差越より

○六月廿八日唐使衆大明へ可有歸船く
 一有被作付吉与と
 一被差是是
 一一生縮之摺落
 一过う花床帷
 帷子二重死
 十重死

一淺黄之表段上品之帷
 一船中對のき次
 一真奩 極上品入
 一さつりさきの旗
 一白米
 一猪白朽
 一鴈鴨
 一雞
 右四人之云御使者と一と持来候之程
 何にくとも不之事付有之云々

上之之者信然とす。辱即り不亦有
 此上極也。答。極。即。此。一。九。城。有
 更に。山。里。に。よ。い。て。地。勢。面。有。七。粒。と。云
 此。作。中。に。地。所。有。一。つ。粒。と。云。飲
 と。り。し。く。正。常。な。地。方。に。道。城。を。置
 一。海。り。立。一。中。し。及。つ。道。を。八。粒。と
 一。と。云。也。網。解。人。と。い。は。れ。ら。る。に。其。身。を。神。豆
 一。り。し。一。を。以。て。人。を。も。ら。の。云。所。も。り
 大。國。乃。志。解。一。大。海。に。志。め。や。う。た。り。す。
 院。之。語。と。哉。一。物。り。也。大。明。の。解。自。公。之

國。和。更。之。故。取。く。と。昔。勢。之。昔。取。所。成。思。田
 相。監。内。若。飛。海。也。惟。子。十。元。張。子。百。粒。死。解
 取。有。之。事。り。也。此。故。一。網。解。と。名。信。屋。と。の
 地。を。十。度。計。に。も。ら。ひ。し。一。粒。と。云。地。感。に
 文。芳。一。時。一。を。い。し。一。の。り。

大明被遣册一書

一。和。平。松。約。無。於。遠。者。一。地。張。能。書。盡。茲。矣。不

可有差愛也。然亦迎。大明皇帝之贊也。可備日本之右妃事。一兩國年來依間際劫合之平及新院矣。此時及之官船高船所有付中事。一大明日本通好不可有差愛之者。兩國相投之大由之可無控詞事。一於朝鮮遣前驅止伐之矣。至之保為鎮。國家者百姓能可也。亦相此條日伴之於傾地者不顧朝鮮又逆志對。大明分八之。以四道并國城可遂的解國。

王且又前年投的解。差三使投木瓜之好也。條蘊附去四人口實也。一四道者既逐投之。然則朝鮮王子并大。一之負負為贊。亦有渡海事。一去年約解王子二人亦驅生擒之。其人順凡爾不混和。第四人度支沈聲可胸。四國事。一約解國王之投也。思世不可有差却。之者控詞之書之。如此者為四人向。大明唐使縹之可陳說之者也。

天祿二年 未 六月廿八日 秀吉 中

對

大司勳使可告勅之條目
一夫日本者神國也即
天帝之弟神心令其居依之國俗
勅神代凡度宗王法每天則地有之可
之維然風俗易種

輕 一本無 神代三字

憐 慈

即

遂 能 經

綱命英雄多稔隨國分崩矣予之慈母懷
胎之初夢日輪八胎中覺後為偶而百於
古卜之曰三無二日始輝輝の海之在瑞
也或及壯年夙夜憂思世國再之
復
聖明於神代遺威名於萬代思之不止
隨孫十有一年族滅於此其常而攻城無
不後歎陣無不廢有亦心者自消之矣
已而國富家媿氏均其所而心之所念每
不遂此予力之之所授也

大司勳使

三十一

日本之賊船年來入

大明國橫行于處之難成冠于曾依有日光照臨天下之先兆欲正八極既而遠鴻邊陲海路平穩通貫無障礙制禁之

大明亦非所希乎何故不伸謝詞耶蓋吾朝小國也輕之侮之手以故將兵欲征

大明然朝鮮見機差遣三使告隣國乞隣下前軍渡海之時不可塞糧道不可遮兵路之旨約之而故矣

大明日本會同事後朝鮮至

諾

大明啓達之三年內可及報谷約年之間者可偃于戈旨諾之年期已雖相過無是罪之告報朝鮮之妄言也其罪可逃乎各自已出悲之所攻也欲臣遠約之旨於是彼備築城高壘防之矣前驅以寡擊手衆多列其首疲散之群卒伏林恃牆壁月拳蟹戈雖窺隙交鋒則潰散連北教于人討之國城亦一炬成焦土矣

大明國救朝鮮急難而失利是亦鮮及間之故也

於此時

大明之使委人來于日本名護屋而說大明之
論言答之以七件見于別幅為四人可演說
之可有返章間者相追諸軍渡海可遲速
者也。

六月廿七日

秀吉朱印

增田右衛門尉

石田治部少輔

大谷刑部少輔

小西橋本守

秀吉公吳郡の所を立所く而極真之

又禄三年六月廿八日之りなりは瓜畑を以
てよく作りたりしり所におおく瓜を極
屋をいしりも兼おしりるこ瓜あま人の由
福をうさまつて各をも慰め又瓜心をも慰
めいて毛陣の芳を補ひあひなり。瓜を立
拵帷をりさまらるれありこの事を頭巾管
の立を瓜肩に抽し味りの瓜めを授く

瓜

瓜

瓜

瓜

瓜

有^一の御商人子達ふ所となして法きく
く有^一なり。

江戸大納言家康公の御^一に成せしき大
中に何^一かり^一くとおま^一りもよく似侍
り^一なり。

丹波中納言秀孫の漬物^一をい^一てかりき
の瓜^一瓜^一免せくとぬつ^一り^一あ^一る^一あ^一ひ
り^一ふ^一り^一は^一り^一ま^一り^一ま^一り^一の^一り^一ま^一り^一ま^一り^一
は何^一も^一無^一物^一に有^一よ^一ま^一り^一思^一ひ^一は^一く^一年^一の^一り^一
無^一物^一の^一り^一の^一り^一ま^一り^一ま^一り^一の^一り^一ま^一り^一云

人も多かり^一なり。

常^一々^一の^一遍^一参^一僧^一に成^一あ^一る^一又^一庫^一を^一あ^一さ^一は
り^一げ^一る^一同^一高^一に^一持^一せ^一修^一の^一御^一に^一物^一の^一り^一
も^一蛇^一に^一衣^一を^一ま^一り^一や^一り^一に^一て^一大^一ち^一を^一に^一足^一
か^一賀^一大^一納^一言^一利^一家^一の^一置^一の^一り^一の^一た^一ひ^一を^一有^一
か^一け^一尾^一と^一考^一を^一ま^一り^一に^一し^一者^一か^一り
信^一ら^一夢^一た^一し^一有^一げ^一は^一是^一て^一御^一あ^一り^一を
信^一り^一ゆ^一り^一。

會津忠^一之^一御^一の^一茶^一を^一い^一て^一秀
吉^一公^一へ^一扱^一上^一の^一茶^一を^一ま^一り^一せ^一つ^一代^一を^一い^一て^一く

三松老ハありて興ありて

三松老ハありて、守惟と上にうらたむ。然つて、
欠せく。又、日月の物とよし云つて、
あませ給ふ。又とわ。

或曰。三松ハ尾列武徳家ナリ。津川玄蕃允
の令先にくおいせり。

織田を、未老、客僧に、お、
僧は、瓜内、結縁ありぬ。と、
手つて、二旅、
てい、

徳

或曰此人ハ織田備後守敏の事子海あり云一人也
育る中、
況、
川、
地、
を、

或曰此人ハ栲別を、
人、

三松田民部、
高、

さくし者一々やかれけりま勢してたた念念佛佛をつね
みみせせ必必仏仏子子かかららそそとと後後法法一一侍侍りぬ去去を先世世
とと才才一一ににいいりり幸幸來來世世とと才才九九才才十十子子ののいい
へへ一一念念仏仏ももじじつつくく侍侍るる皇皇孫孫とと一一七七聊聊氣氣をを
ぬぬけけいいをを正正ににししららたたとと一一ひひたたとと一一現現世世乃乃現現り
背背ぬぬるるににととののいいひひ一一一一ままままままままとと一一父父母母の
氣氣とと父父母母のの氣氣ハハ夫夫地地ノノ氣氣也也天天地地之之氣氣ハハ不不生生
不不滅滅ななまままままま人人ささとと一一てて掃掃拂拂すするるとと一一事事
かりかり
右右とと外外禱禱宜宜ここしし使使ししちちららとと一一精精進進のの行行とと

掃掃のの本本をを立立者者一一かりかり
掃掃をを乃乃古古今今ににハハ附附田田掃掃施施成成ににククララガガハハ友友
つつととてて將將軍軍のの中中居居りり一一クク白白ききとと一一をを
恙恙一一ぐぐららききととんんとと此此ああかかけけたたとと此此ハハ紅紅のの糸糸とと
ててううららううららかりかり

茶茶ををのの亭亭をを二二冊冊ハハ之之上上とと良良ををとと一一ああままかか
ハハととここままののいいとと一一是是もも將將軍軍ののいいちちららとと一一者者
とと一一日日計計ややととハハかかきき一一ああままかか立立ハハああままのの
ささきき知知ろろ袖袖ののゆゆこことと乃乃かかららととんんととんんととんん
つつととんんととかかああけけてて一一茶茶ととりりとと一一ああままとと一一事事

茶

三

手んちうし、おりま、いさこ、おちり。又、あつ下
ハ、お、ま、つ、り、く、お、ま、酒、七、さ、り、麦、七、入、い、と
云、つ、内、子、と、川、を、う、り、一、せ、し、る、外、の、内、核
燻、く、布、袋、の、突、け、や、う、に、目、七、口、七、を、計
子、尺、く、せ、給、ふ。

○朝鮮舟着之浦へ取お之城くる
朝鮮舟着之浦へ取お之城くる
朝鮮舟着之浦へ取お之城くる
朝鮮舟着之浦へ取お之城くる
朝鮮舟着之浦へ取お之城くる

甲午八月十日名護屋より
細多のりお、お、ち、く、せ、あ、し、に、あ、く、廿、日、給、事、く、行、給、也。
廿、日、至、大、坂、着、船、あり、而、屋、中、京、師、御、而、再、章、是
也。お、ち、あ、ま、し、ハ、廿、七、日、子、内、集、着、あり、也、下、也

既之眉を開きいと目あかりなり。葉中より海國之
 義而収まおろさゆき青。勅使菊亭右府以下。千所
 清花法門跡之家。高之山。見。道。花。古。徳。和。より。所。後。
 と。巻。教。多。と。掛。け。口。お。市。を。る。一。ほ。つ。る。す。八。月。廿。六。日。
 一。し。九。月。中。に。及。つ。り。と。い。か。り。か。り。ち。り。山。墨。教。り。
 と。と。お。し。ま。ら。く。と。あ。ら。り。ぬ。

○大坂西丸御能くす

甲午九月十八日

初日 菊

菅松新九郎

呉服

仕平 金妻大史
 脇 妻友右衛門

笛ハ情カキ
 大鼓ハ樋口石見
 小鼓ハ妻友之良

あし 秋海之良

太鼓 幸兵衛之良

田村

仕平 孝吉之良

笛 生次之良

山崎 山崎之良

大鼓 大茂平之良
 小鼓 幸兵衛之良

定家

仕平 之妻大史

笛 伊藤之良

服 下村

大鼓 樋口石見
 小鼓 之妻大史

白王帝

仕平 之妻大史
 服 甲田

笛 八幡之良

西鬼 杉田伊与子

大鼓 大茂平之良
 小鼓 之妻大史

史妃 伊藤之良

野

仕平金妻大吏

服下村

笛竹友

大鼓樋口石見

少鼓 弟一と三良

羽衣

仕子金妻大吏

服人妻妻若三郎

笛七次良

大鼓 弟三也妻若菜

少鼓 早川源茂

奴 ^紅

仕子金妻

服 甲四

笛七次良

大 弟三也妻若菜

小 幸也と次良

大鼓 山崎卯吉

源氏信妻

仕平金妻大吏

服 山見女好

笛八情少右馬

大 弟三也妻六

小 弟三也妻三郎

山祖母

仕平金妻大吏

服 七妻若三郎

笛七次良

大鼓 信右馬

小鼓 弟一と三良

大鼓 妻日土平次

○ 朝鮮陣七年

壬辰三月朔日秀吉云都々立く。至平服秀國名

護屋前美陣月一七。朝鮮 内海を以て

一ノ巻一ノ七月廿二日大政お成り付く
此後諸事あり九月又九列より下向あり
美已夏か友なる助也。平そ朝鮮海海之折
節。船軍あり

甲午八月廿六日將軍玉之取江城也。二在の事

朝鮮より後朝と

し未より戊戌まで四年ハ朝鮮和議地之利金
所要害十ヶ所一ノ人妻平之勢を至あり
一ノ戌く秋を陣之勢。悉く日本へ



